



月刊部品新聞

2012年5月
第72号
編集・発行 Unit

チーム医療を基に

チーム医療という言葉を聞いたことはありますか。

医療環境モデルの一つで、患者を中心として、医療従事者がそれぞれの専門的な立場で連携し、医療を行ってゆくというものです。

このようなモデルが出てきたのも、医療が高度化、複雑化してきたためといわれています。

コ・メディカルは何語
このチーム医療と同じような意味合いでコ・メディカルという言葉もよく使われています。

私も初めて知ったのですが、実はこの言葉は和製英語です。
定義は非常に曖昧であり、この言葉を使用する状況や使用者の背景によって変化してしまします。
それ故にこの言葉の使用自粛を

決定した学会もあります。

競技に置き換える

患者は競技者に、医師は監督に置き換えることが出来るのではないのでしょうか。

患者（競技者）をよりよい状態にするために、医師（監督）が出来ることを行う。

以前であれば監督が全て指導を行っていましたが、医療と同様に運動競技においても高度化、複雑化しているため、監督一人ではタ・テ・コ・スマを全てを行うということは難しくなってきました。

目標設定

今の日本の現状では年代ごとの全国大会を目標としている競技者も多いようです。しかし少なくとも指導者においてはそこはあくまで通過点として考え、世界で通用

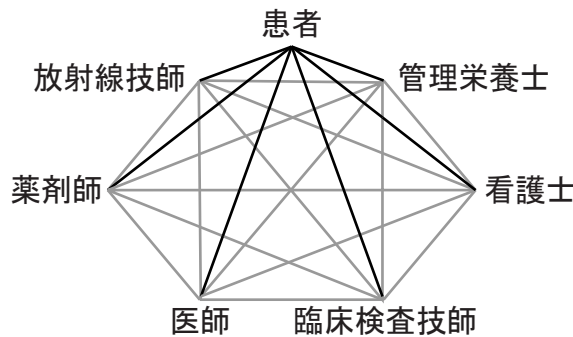
するための指導をしてゆかなければ、継続的に世界で通用する強化をすることには様にはならないのではないかと思えます。

そのために監督できることはなんのでしょうか。
一人で行えることには限界があります。それが分かっているながら指導を続けることは、果たして競技者のためでしょうか。

す。少なくとも競技者のレベルより少し上であれば指導をすることはできるでしょう。
しかしこれは可能ということだけではあつて、それが良いということにはなりません。
専門家との連携
私たちが栄養や、薬に関することなどは勉強を続けています。が、専門家と話をする上で必要な共通言語や認識を持つことが精一杯です。
その中途半端な知識でも競技者からすしても十

分な情報なのかもしれません。
しかし専門家にきちんとした指導をしてもらう方が遙かに効果的、効果的なのではないでしょうか。
どのような手術でも医師がたった一人で行うことではないのではないのでしょうか。
それが何を意味しているのか。
競技者の能力を向上させたいのか、自分が全てを管理して指導したいだけなのか。常に考えて行動する必要があるのかもしれません。

専門分野で患者を支える チーム医療のイメージ



Unit代表 澤野 博 (さわの ひろし)

日本体育大学卒。社会人経験を経て欧州へ留学。乳酸を中心としてトレーニングを幅広く学ぶ。帰国後、部品となって競技者を支えるという意味で「Unit」を設立。競技種目、競技レベルを問わずトレーニング指導を中心に活動。医療系国家資格の臨床検査技師の資格を持つ異色のフィジカルコーチ。NSCA CSCS、JADA DCOなども保有。
ご意見、ご要望、仕事依頼、お問い合わせは下記まで。
0422-34-5055 (Fax 兼用)、090-1999-2845 または sawano@team-unit.com

はみだし：ロンドンも 目標でなく 通過点 競技者ならば 常に高みを